

柘植地域

まちづくりだより 第225号

発行 柘植地域まちづくり協議会事務局
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地

発行日 二〇一八(平成三十)年十二月一日(土)
電話 四五八八八〇 FAX 四五八八八三
千五九一四〇二二
(柘植地区市民センター内)

柘植地域俳句コーナー

明るさの

初雪へ身の

弾みけり

中西昭子

若者(消防団員)が考える

柘植のみらいづくり

若者の声をもっと 活かされる地域をめざして...



「えんたくん」を使って意見交換

Q1 市・まち協・区の情報が届いていますか？

まあ6 あまり10 無答1

Q2 あなたの声は地域・区で活かされていると思いますか？

あまり11 まったく6 無答1

Q3 あなたは地域で活躍できていると思いますか？

はい3 まあ6 あまり6 無答2



11月11日(日)午前、柘植地区市民センターで「柘植のみらいづくり塾」(若者対象)を開催しました。
今回は、柘植地域消防団の全面協力により、地域に7つある各消防の各班幹部級の方を対象にワークショップを開催しました。(参加者17名)

最初に柘植地域の特徴や人口推移などの実情をグラフや表を見ながら、これからの「少子高齢社会」のありようを思い浮かべていただきました。その際、参加のみなさんに枠内の質

問をした結果、せっかくの若者パワーを活かしていきたくないことがわかりました。「消防」という立場ですので、Q3「地域での活躍」については高くなっています。
その後は4班に分かれ、丸テーブルの「えんたくん」を囲んで、次の2つのテーマをグループで話し合いました。

① どんなことを地域に訴えたい？

② この地域で長く暮らしていくために※話し合いの内容の一部を、2ページに紹介しています。

話し合いの後は参加者みんな写真撮影(2ページ参照)をし、輪になって茶話会で感想交流をしました。

その後、消防のみなさんは、午後のパレードに出動されました。





参加者集合写真です！
**日頃から地域を支えている
 消防団員のみなさん！**
 誇り・凛々しさがあふれています！

若者の目線で出された意見の一部を紹介します。読者のみなさんも自分事として考えてみてください。

① どんなことを地域に訴えたい？

- 〈消防活動に関わって〉
- ・ 区による違いはあるが、区の自主防災組織と消防団の連携が弱い。
 - ・ 青葉台区に消防団を設置すべきである。
 - ・ 団員募集に区や地域も力を貸してほしい。
- 〈その他〉
- ・ 地域行事にメリハリがないのでは？。地域行事に出る人は同じで出る人の負担は増えるばかりである。
 - ・ 生活が多様化し、地域の行事に出られない。また拘束時間も長い。地元の付き合いがイヤで出ていく人さえる。
 - ・ 若い者の意見を取り入れようという姿勢を感じない。

② この地域で長く暮らしていくために

- ・ 消防団の活動を地域に知ってもらう機会を増やす。
- ・ 子どもの頃から地域の活動を知り、地域活動に興味を湧くように行事を計画する。
- ・ 高校卒業後、地域から心が離れないような取り組みを。
- ・ 人口減少が加速し、ライフスタイルが昔とは違う現代、今回の資料をふまえ、生活していくための課題を洗い出していくべき。
- ・ 区の中の「タテ」関係だけでは地域づくりはできない。柘植地域1区の「ヨコ」のつながりを活かして地域づくりを進めるべきだ。

ようこそ、伊勢市から
 近江八幡市(滋賀県)から 当地へ

11月13日(火)午前、伊勢市神社(カミヤシロ)地区まちづくり協議会のみなさん17名がお越しになり、防災等を主テーマに交流を行いました。



平成25年に設立後、「安心して住める」「人にやさしい」「楽しく元気な」の3つの視点からまちづくりを進めているとのことで、海辺であることから防災に力点を置いた取り組みをしておられます。

研修後の昼食は「杜のカフェいこいこ」で取っていただきました。

また11月17日(土)午前には、滋賀県近江八幡市から八幡学区まちづくり協議会福祉部会のみなさん24名がお越しになりました。

「防災の安否確認シート」や「つげふくしネットでの見守り」などについて説明し、意見交流しました。



「食へる事で健康になる」食事療法体験

女性活動部会

9月24日(月)、からだ
により健康食をテーマに女
性活動部会10名で研修に行
きました。奈良県宇陀市に
ある食事療法の専門家が料
理を提供している古民家レ
ストランで食事をしてきま
した。



また、近くにある
ホテイアオイの農園
では満開の様子を見
たり、奈良県の「地
滑り対策事業」から
始まった自然環境と
調和した公園「室生
芸術の森」(室生山
上公園芸術の森…宇
陀市室生区室生…2
006年竣工)の見
学もし、防災の研修
にもなりました。



「齋王群行」をPR!

旧阿山郡内の神社関係者に披露
11月10日(土)午後、伊賀市馬場に
ある陽夫多(やぶた)神社にて、敬神
婦人会のみなさんが柘植の齋王のいわ
れや祓の儀の様子を披露しました。



現在、休止中の齋王イベントです
が、身の丈に合った新たな形で再
開できないかと検討しています。

農業まつり、これからも...

特産品創出事業実行委員会

11月23日(金)勤労感謝
の日)、第19回ふれあい農
業まつりが、まえがわ育苗
センターであり、実行委員
会として「黒豆あんまき」
の販売をし好評を得ました。

次に農業まつり副実行委員長の高橋春光前
川区長よりのメッセージを紹介いたします。

今回は、多くの方々からの協賛金があり、
本当にありがとうございました。

この「祭り」を通して言葉を交わし、笑
顔が溢れる「ふれあいの場」をたくさん見
ることができました。

私達は日々の生活の中で多くの事を学ん
でいます。その中で最も大切な事は人間と
しての生き方であります。人権教育、同和
教育について基礎的な学習
の場は、多くありますが率
先して実践することが社会
的責務を自覚して人権の確
立に取り組んでいくことが
大切です。つまり、人格、
品性の向上に努力し、神に
近づいていくような心づか
いが重要です。

これからも、地域社会の
人々がすべて幸福になれる
ように、この「祭り」を続
けていきたいと思えます。
ありがとうございました。



合同防災訓練の反省は、それぞれの立場でしっかりとお願いします!!

自主防災実行委員会

心配された台風25号の経路が予報よりも北にそれ、当日はますますの天候に恵まれて予定通り朝8時の一斉放送により、合同防災訓練を開始することが出来ました。

参加された1,197名の皆さま、有難うございました。柘植地域の住民の約38%の方が約半日、防災と言う名の下に行動を共に出来たことは大変意義のあることだと思います。

今年の防災訓練は、特別なことは行わず、①発災直後の行動(特に安否確認)は確実にできてそれぞれの立場で報告できるか。②参加した防災訓練を実災害として捉えて参加しているか。③初動リーダーの方は、自分達のしなければならないことができているか。④指定避難所に到着した地域の方々、初動リーダーに任せっきりせず協力して避難所の開設ができているか。⑤今回初めて行った「避難者名簿」記載ができているか等、極めて基本的なことを行うことをコンセプト(考え方)として実施しました。このことは、全戸配付した「チラシ」に訓練内容等としてお知らせした通りです。これら個々については、後日行われる自主防災実行委員会(11/29)においても検証予定ではありますが、地域の皆さまも「個人や家族等それぞれの立場でどうだったか?」と考えて頂きたいと思います。

「柘植地域は災害の少ない所だ」とよく耳にします。確かに、津波は勿論のこと洪水が発生したこともなければ、大地震も1854年に発生した「伊賀上野地震」まで、さかのぼらなければ歴史に登場しません。しかし、これらは全て過去の問題です。私達現代社会に生きている者に適用されるものではありません。震度5以上の地震は日本のどこでも発生しえますし、地球温暖化からカゲリラ豪雨のような自然災害は毎年のように発生しています。

災害が少ないからと安心せず、いざという時にどうすれば良いかを、それぞれの立場で考えていくことが私たちに求められています。

そしてそれは、災害に強い柘植地域を目指して柘植地域の住民みんなが、1年のうちのたった半日とはいえ防災訓練に参加し、その取り組みを一人ひとりがふりかえることから始まるものではないでしょうか。



▲柘植中学校体育館避難所での様子

▶柘植小学校避難所での様子



専門家のアドバイスを活かして・・・

11月9日(金)午後、自主防災実行委員会の事務局・役員5名で、三重大学にある地域圏防災・減災研究センターを訪ね、川口淳准教授(写真中央)から、『防災マニュアル』を改定する上でのアドバイスをいただきました。

特に避難所でのペットの扱いに関しては、「柘植地域で取ったアンケート結果は貴重であり、そのデータをふまえた啓発が今後有効である」とのご示唆をいただきました。



寄稿 平成三十年度「しぐれ忌」

十一月十二日(月)、松尾芭蕉翁の遺徳を偲ぶ「しぐれ忌」が山出区萬壽寺で営まれ、住民ら約百十名が参列されました。



午前九時半、コーラス「ユー」の皆さんによる『芭蕉讃歌』の澄みきった歌声が本堂に流れ、その後、(公財)芭蕉翁顕彰会会長、宮田正和氏が開式の言葉、副会長、岡島久司氏が顕彰の言葉を述べられ、落合住職による法要が営まれました。

法要後、境内の墓標へ献花し、皆さん列をなし墓参されました。おもてなしとして、山出区むらづくり委員の女性等が甘酒とお茶、また区有志の女性らが地元産のさつま芋を使った鬼まんじゅうを振る舞い、菊花の展示等見ながら、熱々の甘酒と一口鬼まんじゅうに皆さん喜んで下さいました。



の上手とも言われている等、お話し下さいました。ご来場いただいた皆さん、ありがとうございました。

山出区しぐれ忌協賛事業実行委員会

この後、本堂では岡本市長の挨拶に続き、山出区実行委の主催による記念講演、芭蕉翁記念館学芸員、高井悠子さんに『芭蕉の魅力』と題し、ご講演いただきました。(上写真)芭蕉は四十一歳の時「野ざらし紀行」の旅に出、自らを旅人と意識し「笈の小文」「更科紀行」そして「奥の細道」の旅と続く。又、連句にも精通し芭蕉の恋の句も多く、恋



芭蕉さんを偲んで…しぐれ忌

いつの間にか行く秋を惜しむ季節となりました

おまたせ、柘植駅前イルミネーション! (*^^)v

11月22日(木)午前、検討委員ほか有志5名で、JR柘植駅前にイルミネーションを設置しました。これからの日暮れの早い季節、また寒い季節に柘植駅を利用する皆さんにホッとしてもらえとうれしいです。



▲イルミネーションと花壇の整備をしました。



柘植駅を核とする公共交通のあり方検討委員会

恒例!ふれあいコンサート

教育文化部会

11月17日(日)午後、恒例の「ふれあいコンサート2018」が開催されスタッフを含め50名を超す方々が集まりました。

今年には二胡とギターユニットで活動している「ケール」のお二人を招き、「癒しのコンサート」と題して楽しんで頂きました。



「ケール」は滋賀や京都を中心に活動されているグループで、さる9月1日のふるさと会館がイベントにも出演。多くの方から再演要望があり、お願いしたところ今回の公演が実現しました。

二胡が奏でる独特な音色とギターの伴奏で、癒しのコンサートにふさわしい曲の数々が演奏され、観客も一緒に口ずさみ、会場いっぱい歌声の輪となって盛り上がり、時が経つのを忘れていました。



★★★事務局だより★★★

▼「柘植地域の次世代を担うであろう若者をはじめ女性、あるいは移住者の方々が集いつながり、まちづくりについて考える機会を計画する」(今年度総会議案書より)：この計画の下に、各区幹部対象、移住者対象、そして女性対象のワークショップに続いて、このたび消防団員を対象にしたワークショップを開催することができました。▼消防団は存在そのものが「柘植地域のまちづくり活動」であり、区を越えた「ヨコ」の関係があり「キズナ」の強い活動組織です。実働部隊として、消防団の存在価値を改めて評価するべきと感じました。▼そうした消防団の方々ですが、改めてこうした機会を持つことで、団員一人ひとりが地域に対する目をリフレッシュさせ、これまでの消防団活動に地域の将来という視点を付加していただけたことは、地域の将来のために代え難い貴重なものと考えています。「まちづくりにには金も必要だが、つまるところ人が必要」：「人」とは人数のことばかりではありません。思考力と行動力を活かせる「人」を育て次世代に引き継ぐことが必要なのです。激動の現代を生きるために若い視点で柘植地域の将来と向き合っていたら、たくさん思っています。またまち協事務局としては12区と連携して、そうした機会を用意していきたいと思えます。▼忘れずに付け加えておきたいことがあります。今年度は防災面において消防団と組んで密なシステム(区と各班消防、まち協と本部消防)を確立させることができました。これでいざというときの地域力は俄然向上できたと思えます。来年度以降も、「双方向のつながり」を大切に行政の支援の下に防

災減災の取り組みを継続していければと思います。▼ところで、みなさん、名張・伊賀地域みっちゃん生活情報誌「リィーガクラブ」ってご存知ですか?下の写真は地域防災について取材を受けているところです。近々発行される記事に柘植の防災活動が伊賀市代表で紹介されるとのことです。乞うご期待。▼またまた話題は変わりますが、



5ページ下掲載の柘植駅前イルミネーション、日没から6時間設定で写真のように駅周辺を賑やかにしています。ちなみに岡鼻区でも集議所付近にイルミネーションを設置したそうです。冬の訪れとともにそうした楽しみが増えるといいと思います。▼最後に、今号も『まちづくりだより』は6ページでの配布となります。

(西田方計)

